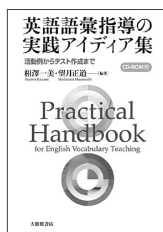


英語語彙指導の 実践アイデア集

相澤一美・望月正道 編著

A5判 286pp.
本体2,400円＋税

清水伸一



小・中・高・大の教育現場で生かす語彙指導ノウハウ

本書の内容を一言でいうと、語彙習得を目標に置いて、教室での具体的な活動事例の紹介である。そして、紹介されているどの活動も理論的な背景に裏付けされている。それは、本書の執筆陣が長年にわたり語彙習得の研究に携わってこられた教育者の方々だからである。理論と実践の両面から十分に吟味された内容は、教室における教師たちの悩みに、的確に答えてくれる1冊となるであろうと期待される。

まず、本書は小学生から大学生までの学習者をカバーする。そして、活動の種類によって推奨される学習者の層が各実践例の前に示されている。たとえば、「フォニックスの導入」という例では、学習初期～中期の学習者を対象としており、小学校後半から高校前半までの実践が推奨されている。「英英辞典を利用した語彙力の増強」という実践例では、上級の学習者が対象となり、高校後半から大学での実践が推奨されている。ただ、全体的には中学・高校の学習者を対象とした実践が多く、小学校の現場での実践例は少ない。

本書の構成は、全4章プラス付録という形を取っている。中心となる章は、教室での実践例を集めた第II章、自律学習に重点を置いた第III章、授業評価とともに学習者の習熟度評価を扱った第IV章である。付録では、語彙指導の理論的背景を、8つのTipsにまとめて解説している。さらに、本書にはCD-ROMが付属していて、本書の内容と連動した語彙指導ワークシートや、学習者の習熟度を測定できる語彙サイズテスト(PC版・筆記版)等が含まれている。

第II章の実践例は、語彙指導の目的という観点から、「導入のための実践例」「定着のための実践例」

「発展のための実践例」「予習・復習の指導例」の4つに細分化されている。また、使用される技法も、フォニックスの応用、オーラル・イントロダクション、ペアワーク、ビンゴ等のゲーム形式、単語カードの活用、形態素認識、単語間ネットワーク構築、予習・復習プリント作成法と多岐にわたっている。たとえば、高校では大学入試を控えて飛躍的に語彙サイズを広げる必要があるが、そのための方策として、形態素認識と単語間ネットワークの考え方に即して、接辞、多義語、同義語、反意語、コロケーション等をどのように導入していけばよいかが丁寧に説明されている。

第III章の「自律した語彙学習のために」では、主に「辞書・単語集の利用」と「多読を通しての語彙修得」が紹介されている。また、記憶定着の学習では、学習者ごとに好まれる学習方法が異なるため、様々な状況に応じた学習計画をアドバイスしてくれている。

第IV章は、語彙の評価(語彙の定着率の確認)を扱っている。前半は、授業内で行う、各単元やコース終了時における定着率の確認を紹介している。後半では、「語彙サイズテスト」を紹介している。これは、教科書や授業の内容に関わらず、学習者の語彙サイズの大きさ(定着している受容語彙の数)を測定するテストで、一般的に「望月テスト」として日本の教育や研究の現場でよく使われているものである。本書にはその第1～第3版が収録されている。前述したように、PC版(コンピュータプログラムで、語彙サイズを自動判定してくれるもの)と印刷用の筆記版(ワード文書)がCD-ROMに入っている。望月テストは、7,000語からなる語彙リストを1,000語刻みで分類したものがベースとなっていて、中学校修了程度で1,000語、高校修了程度で3,000語というのがおおその目安である。このテストの結果は、英語全般にわたる学習者のスキルと関連性があると言われている。つまり、このテストを簡便な習熟度テストとして用いたり、学習者個々の状況に合わせてどのレベルの語彙を学習すべきかを助言するために用いる等、今までにない学習活動につなげることが可能である。また、7,000語から成るテストなので、教師としてもぜひチャレンジしたいところである。

(しみず しんいち・安城学園高等学校教諭)